

[54] Title of the Invention: Speaker Diaphragm
[11] Utility Model Examined Publication No. S36-12804
[43] Date of publication of application: May 22, 1961
[21] Application number: S33-64996
5 [22] Date of filing: December 6, 1958
[72] Inventor: Yoshimura
[71] Applicant: Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.
[51] Japanese Cl.: 96 O 301 (96 O 32)

10 [What is claimed is:]

A structure of speaker diaphragm, wherein
voice coil bobbin 5's flange is glued on the upper surface of diaphragm 1's edge 3
having a horizontal plane area formed around the central opening, while damper
2's edge 4 formed around the central opening is glued overlaid onto the reverse
15 surface, as shown in the drawing.

[Brief Description of the Drawings]

FIG. 1 is a cross sectional view of a speaker diaphragm in the present invention.

FIG. 2 is a cross sectional view of a conventional speaker diaphragm.

960301
(96032)

特許庁
実用新案公報

実用新案出願公告
昭36-12804

公告 昭36.5.22 出願 昭33.12.6 実願 昭33-64996

考案者 吉村悠 大阪府北河内郡門真町大字門真1006
出願人 松下電器産業株式会社 大阪府北河内郡門真町大字門真1006
代理人 弁理士 吉崎悦治 外1名 (全2頁)

拡声器振動板

図面の略解

第1図は本案の拡声器振動板の断面図、第2図は従来の拡声器振動板の断面図である。

実用新案の説明

本案は拡声器振動板とダンパーの接合構造に関するものである。以下その詳細を図において述べると、1は拡声器の振動板、2は振動板1の水平面になつた中心孔口縁部3の下面に中心孔口縁部4の上面を接着したダンパー、5は振動板1の中心孔口縁部3に側部を重ねて接着されたボビン、7は該ボビン5に接着つけた可動線輪、6は振動板1に設けた筒状部である。

従来の此の種の拡声器振動板は第2図に示すように振動板8の中心孔口縁の筒状部9の内側又は外側に糊を塗布してダンパー12の中心孔口縁の筒状部10を接着し、更にこの筒状部10に可動線輪11を設けたボビン13を糊で接着していたものである。しかしながらこのような構造では振動板8の筒状部9、ダンパー12の筒状部10、可動線輪11を設けたボビン13が3層に接合されるために相当の厚さとなり、接着剤が均一に附着できなかつたり、又接着剤が多量に過ぎて振動板8の振動が重くなつて性能を低下させ、接着剤は手によつて塗布されていたために接合に不正確を生じたりまた作業性がよくなく、小型拡声器においては振動板8の筒状部9とダンパー12の筒状部10の高さが加わるために振動系の高さを小さくする場合に制約をうける欠点があつた。

そのため、ダンパーの中央部に円錐状部を形成し、上記の円錐状部をボイスコイルのボビンと一緒に形成した振動板の小径部に糊等で接着したものが考えられたが、この様なものにおいても次の

様な欠点を有する。即ち、ダンパーの中央部に形成した円錐状部と振動板の小径部との接着を完全に行なうことが非常に困難であり上記の接着を完全に行なうためにはダンパーの円錐状部を大きくしなければならず、従つて接着部が大きくなり余り好ましいものではない。

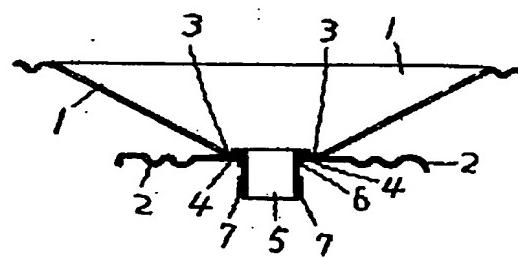
これに対して本案の拡声器振動板によれば振動板1の水平面になつた中心孔口縁部3にダンパー2の中心孔口縁部4を接着する構造であるため、その接着にあたりては、プレスまたは加熱プレスによつて接着することができ、その接着が確実になるとともに接合部の厚さを小さくすることができ、振動板1とダンパー2の均一な接着ができるものである。しかも振動板1の中心孔口縁部3又はダンパー2の中心孔口縁部4に可動線輪7のボビン5の口縁を抜げて重ねこれをプレスによつて同時に接着することができ、余分の接着剤がつかないために振動系が重くなつて性能を低下させることなく接着を確実にならしめるとともにその接着の作業性を良好にすることができるものである。

本案における振動板はその高さを小さくでき、特に小型拡声器の場合高さの制限と振動板1の深さを大きくしたい設計上の要求とを満足させやすく振動板1の中心孔口縁部3の平面の大きさを変えて製品の周波数特性も或る程度に簡易に変えることができるなどの利点を有し実用的效果の大なるものである。

登録請求の範囲

図示のように振動板1に形成した水平面状の中心孔口縁部3の上面にボイスコイルボビン5の側部を接着し且つ、下面にダンパー2の中心孔口縁部4を重ねて接着した拡声器振動板の構造。

第1図



第2図

